

FD・SD
Faculty Development · Staff Development

2020・2021

成城大学 Activity Report

はじめに：副学長／FD・SD小委員会委員長ご挨拶
新任教員研修会
授業改善アンケート
2020年度 ベストティーチャー賞表彰式
ハイフレックス型授業実践セミナー
WebClass活用オンラインセミナー

FD・SDワークショップ
「学生の考えを引き出す授業デザイン」
SDオンラインセミナー
「大学教育における質保証の実質化と認証評価の活用」
ピアチューター制度に係るSD活動報告
各学部及びセンターのFD・SDへの取り組み
2021年度活動計画



学生を懸命にさせる教育をめざして



はじめに

副学長
教育イノベーション委員会FD・SD小委員会委員長

杉本 義行 教授

対話は自然には起きない

2020年度のFD・SDにかかる事業は、おかげをもちまして無事に実施することができました。皆様のご協力とご理解に感謝申し上げます。

本学のFD・SD活動は、①授業改善アンケート、②新任教員研修会、③FD・SD講演会・ワークショップの3つを柱に進められております。昨年度の巻頭言で、2020年度の3月から4月にかけてのコロナウィルスの感染拡大に伴うFD・SD活動についても若干ふれさせていただきました。

多くの私たち教員にとりまして経験したことのない遠隔授業をどのように実施するか、不安の中で4月末に実施した遠隔授業に関する2つのワークショップには延べ500名を超える多くの教職員の皆さんが参加されました。

後期に行われたFD・SDオンラインセミナーでは遠隔授業の質の向上を図る工夫とハイフレックス型授業がテーマとなりました。前期では「学びを止めない」ことを合言葉に、ふだん行っている対面(面接)授業の内容をオンデマンド型やZoomを用いたリアルタイム配信の手段を通じて、学生に伝えることに注力したわけですが、オンライン授業に関する学生への質問調査の結果を踏まえて、より質の高いオンライン授業をいかに実施するかがテーマとなりました。

京都大学の田口真奈准教授をお招きしたワークショップでは、ふだん私たちが授業で用いているZoomのブレイクアウトやチャット機能をより有効に活用して、教員と学生間や学生同士でのコミュニケーションが自然と活発になるお役立ちヒントをたくさん教えていただきました。田口先生のお話の中で、個人的に印象に残った言葉は、「対話は自然には起きない」でした。対話をふくめたコミュニケーションが教室やオンライン上で行われるためには、デザインの力を借りる必要があるということです。

教室での学びで大切なことは場づくりですが、やはり対面とは異なりオンラインでは少しハードルが高く感じます。ワークショップの中では授業デザインの工夫により双方向

のコミュニケーションを活発にできることを体験し、参加者からはとても好評でした。

e-learningの専門家である田口先生をしても“一人でやるのは難しい”と言わしめたハイフレックス型授業(対面とリアルタイムのオンライン授業)について、学内の先生方を登壇者にお招きして年度末に実施したセミナーは、非常勤の先生方を含め多くの方にご参加いただき好評でした。先進的な取り組みを実践されている講師の先生方からは、カメラ、マイクなど機材を含め具体的な情報を詳細にお伝えいただき、中には教室改修直後の教室からご講演をされ、新たに設置された集音マイクや天井カメラで模擬授業をしていただき、開講前の先生方の不安を少しでも取り除くことができたのではないかと考えます。ただ、ハイフレックス型は教員への負担が多く、ピアサポーターによる授業サポート等の支援の必要性を痛感しました。

授業改善アンケートは、昨年度より手書きからWeb入力方式への転換を余儀なくされ、回答率の大幅な低下となりました。これにより、このアンケートのスコアをもとに決定されるベストティーチャー賞の選考は、前提条件となっている各科目のアンケートの回答率の下限を下回ったため2021年度については残念ながら見送りとなりました。回答率上昇の試みにより、いかに改善できるかに注目したいとも思います。

最後に、新任教員研修会についてです。できるだけ効果的に必要な情報をお届けすることを目的に半日コースの日程を組み、10数年同じ形式で行ってきました。ただ、せっかく学部異なる教員が集まるのですから、コミュニティづくりのきっかけとなる取り組みや授業開始後の事後研修も検討する必要があるかと考えます。

FD・SD活動について、教職員の皆さまからのご意見やご要望を賜れば幸いです。

2021年12月

新任教員研修会

本学においての円滑な教育活動を進めていただく一助として、毎年、新任教員研修会を実施し、本学をご理解いただくために、学長から概要や教育理念、これからの取り組みについて、また、各部署からは所管する業務内容や、教育活動の詳細を説明しています。

2020年度は、新型コロナウイルス感染症対策の観点から、非常勤講師の先生方への対面での研修実施は見送り、資料配付のみとし、専任教員4名(経済学部2名、文芸学部2名)を対象に、感染症対策を確実にしながら、4月6日(月)13時～15時50分の時間帯で研修を実施しました。

2020年度 新任教員研修会スケジュール

内容	担当
・研修説明	FD・SD小委員会委員長
・挨拶	学長
・成城大学の沿革 ・これからの取り組み ・自己点検・評価と認証評価等	学長
・授業に関することについて 学則、学年暦、休講・補講、欠席届、公欠、教室使用・教室変更、機材設置、聴講生・科目等履修生、他学部聴講等 ・Campus Square for Web!について 受講者名簿、成績入力等 ・試験、レポートについて 定期試験、追試、試験施行内容登録等 ・成績について 成績評価・開示(評価分布含む)・問い合わせ制度等 ・シラバスについて 記載必須事項等	教務部
・各種アンケートについて 授業改善アンケート、大学IR学生アンケート ・ベストティーチャー表彰制度について ・教育改革制度について PT(ピアチューター)の授業内活用、アクティブラーニンググッズ(えんたくん等)の貸し出し	教育イノベーションセンター
・特別な支援を必要とする学生について	バリアフリー委員会
・教員業績システムについて	総務課
・科学研究費助成事業について ・特別研究助成費について	研究機構事務室
・教育研究用ネットワークとその利用について ・情報関連設備、外国語教育設備、教材作成設備とその利用について ・e-learningツールとその利用について	MNC
・図書館現地視察 図書館の概要・利用方法について、他大学利用状況等	図書館



学長による本学の沿革、取り組み等に関する解説



各部署担当者からの説明の様子



職員からの説明を交えての図書館現地視察

授業改善アンケート



本学では、授業の内容および方法の改善等に役立てるため、授業改善アンケートを実施しています。

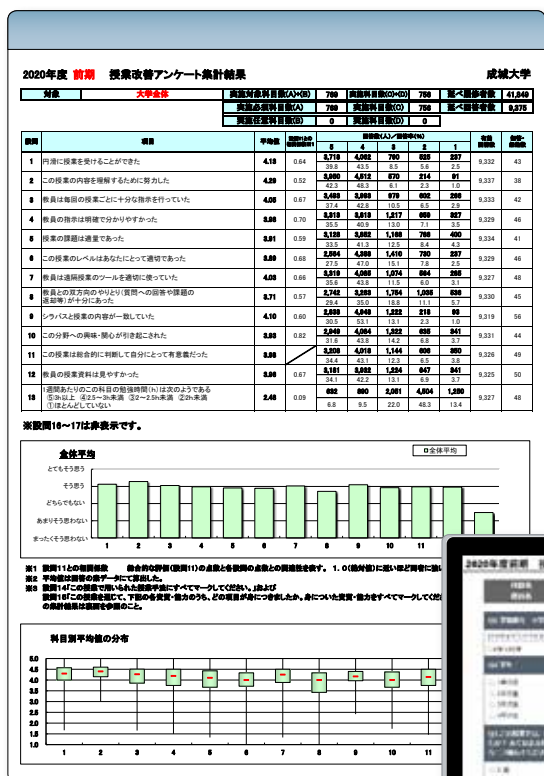
2020年度は、全学的な授業改善アンケートを大学、大学院の全科目を対象とし、前期、後期の2回実施いたしました。

例年は2週間の回答期間で、授業内にマークシートを使用して実施していましたが、2020年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、回答期間を3週間設け、Webアンケートシステムを利用して実施いたしました。

実施状況は、実施任意科目も含め、前期892科目中876科目(実施率98.2%)・後期1,580科目中1,241科目(78.5%)でした。

アンケートの集計結果は、Campus Square for WEBで学内公開し、別途、科目別集計表を各科目担当者へ、大学全体集計表、科目開設部門別集計表、授業形態別集計表を学長、学部長、研究科長、共通教育研究センター長、データサイエンス教育研究センター長、国際センター長、キャリアセンター長へ報告しています。

また、アンケート集計結果の概要および集計結果に対するコメントは大学ホームページに公表していますのでご覧ください。



アンケート集計結果はWeb上で公開しております。



2020年度 ベスト ティーチャー賞 表彰式

本学では「授業改善アンケート」の結果を元に、優れた授業を実践し、教育改革を先導している教員を表彰することで、本学教員の教育意欲向上を図り、併せて大学教育の活性化を図ることを目的とした「ベストティーチャー表彰制度」を設けています。

2020年度は、7月初旬に16名の教員がベストティーチャーとして選出され、7月29日(水)に表彰式を行いました。

2020年度
成城大学ベストティーチャー賞

学生の皆さんに好評いただいた「授業改善アンケート」の結果をもとに、優れた教育及び教育改革を先導している先生を表彰する「成城大学ベストティーチャー賞」は本年度で2回目を迎えました。
本年度受賞された先生方をご紹介します！

（部門別、50名未満）

氏名	所属科/部	所属学部
河野 龍子 先生	Academic Skills 10194 (English Writing)	全学共通教育 国際センター
藤田 雅幸 先生	国際経済学専攻 (GEO)	全学共通教育
中野 真由 先生	法学	全学共通教育
中野 真由 先生	国際経済学専攻	全学共通教育 (キャリアセンター)
山ノ内 洋平 先生	Basic Communicative English (CE)	国際学部

氏名	所属科/部	所属学部
河野 龍子 先生	現代入門	国際学部
河野 龍子 先生	社会イノベーション戦略論	社会イノベーション学部
河野 龍子 先生	社会イノベーション論	社会イノベーション学部
河野 龍子 先生	社会イノベーション論	社会イノベーション学部
河野 龍子 先生	キャリア実践論 (1)～(5)～(6)	全学共通教育 (キャリアセンター)
山ノ内 洋平 先生	国際経済学の基礎	全学共通教育

氏名	所属科/部	所属学部
河野 龍子 先生	経済論	社会イノベーション学部
河野 龍子 先生	文化の基礎①	国際学部
河野 龍子 先生	キャリア実践	国際学部

氏名	所属科/部	所属学部
河野 龍子 先生	経済論	社会イノベーション学部
河野 龍子 先生	文化の基礎①	国際学部
河野 龍子 先生	キャリア実践	国際学部

※同日、表彰式の様子をホームページでも公開いたします。

ベストティーチャー賞について

対象者

本学で開講される授業科目(*)を担当する本学専任教員及び非常勤講師を対象とします。

(表彰が行われる年度及びその前年度において、本学で開講される授業科目を担当している者)

(*)ゼミナール、スポーツウエルネス実技科目及び大学院開設科目は対象外

選考

授業改善アンケートの回答率(*)並びに設問の評点を基準に決定します。

(*)授業改善アンケートの回答者数が10名未満または回答率が60%未満の授業科目は対象外。

対象者数

- 小規模部門1 (10～19名) 5名
- 小規模部門2 (20～49名) 5名
- 中規模部門 (50～79名) 3名
- 大規模部門 (80名以上) 3名

副学長および各学部長立会いのもと、戸部学長よりベストティーチャーに表彰状および副賞が授与され、学長からは「2020年度は過去に例を見ないほど困難な状況にありますが、そのようなときであっても学生の教育に対し変わらぬ情熱を傾けてくださりありがとうございます。」という言葉が贈られました。

2020年度は、新型コロナウイルス感染症対策の観点から、表彰式後の懇談会は行うことはできませんでしたが、今後、受賞教員を講師としたFD・SD講演会や「授業カタログ」の取材等を通じて、授業作りにおけるポイントを紹介・共有いただき、大学全体のFDの活性化へと繋げていきます。



記念撮影時以外はマスク着用の上、座席間隔を空ける等、新型コロナウイルス感染症対策をとって表彰式を行いました。



当日の様子をWeb上で公開しております。



FD・SDオンラインセミナー

ハイフレックス型授業実践セミナー

講師 新倉 貴仁 准教授(文芸学部)

水澤 祐美子 准教授(文芸学部)

町村 泰貴 教授(法学部)

青山 征彦 教授(社会イノベーション学部)

遠藤 健哉 教授(社会イノベーション学部)

日時 2021年3月30日(火) 午後3時～5時

開催方法 Zoomによるオンライン開催

2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、全学的な遠隔授業の実施が急遽決定する中で、各授業科目では、様々なアイデアを駆使して遠隔教育が推進されました。2021年度は、演習科目(ゼミナール含む)や語学科目は原則対面授業とする一方で、学生から自宅受講の特別対応申請があった場合は、遠隔での授業実施にも対応する「ハイフレックス型」での授業形式を実施することとしました。


このような背景のもと、「ハイフレックス型」授業を実践された5名の教員に本年度の授業運営等について、率直な感想や実施してみたからこそわかり得た事項等を報告いただき、より効果的な遠隔授業のデザイン・運営についてをともに学ぶセミナーを開催しました。

参加費無料
事前申込制

ハイフレックス型授業実践セミナー

本学では、新型コロナウイルス感染症の影響により、本年度は多くの授業科目でインターネットを活用した遠隔授業が行われてきました。全学的な遠隔授業の実施が急遽決定する中で、先生方には様々なアイデアを駆使して遠隔教育を推進していただきました。求年度は、演習科目(ゼミナール含む)や語学科目は原則対面(対面)授業とする一方で、学生から自宅受講の特別対応申請があった場合は、遠隔での授業実施にも対応する必要があります。そこで、この度、「ハイフレックス型授業(※)」を実践された5名の先生方に本年度の授業運営等についてご報告いただき、より効果的な遠隔授業のデザイン・運営について皆様とともに考えたいと思います。

※ハイフレックス型授業：同じ内容の授業を、対面とオンラインで同時に行う授業方法

文芸学部 新倉 貴仁 先生		社会イノベーション学部 青山 征彦 先生
文芸学部 水澤 祐美子 先生	法学部 町村 泰貴 先生	社会イノベーション学部 遠藤 健哉 先生

日時 2021年3月30日(火) 15:00～17:00

会場 Zoomによるオンライン開催

対象 学園教職員及び非常勤講師

- 1) 開会挨拶 副学長、教育イノベーションセンター長 杉本 義行 先生
- 2) 実践報告 (15分×5名)
- 3) 休憩・質問受付 (10分)
- 4) 機材説明 (10分)
- 5) 質疑応答 (25分)
- 6) 閉会挨拶 教務部長 大津 武 先生

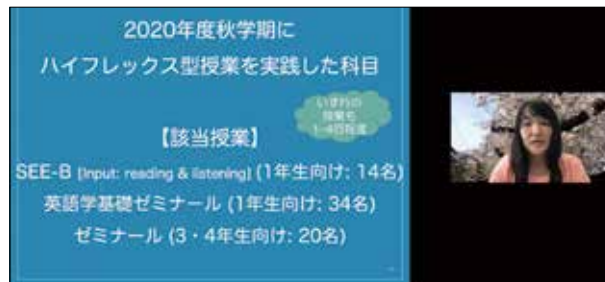
参加ご希望の方は下記専用フォームより、3月28日(日)までにお申込みください
<https://forms.gle/3CjfrzhUf5xwZCYsJA>

※申込者には、セミナー当日までにZoom URLをメールにてご案内します

お問い合わせ：教育イノベーションセンター TEL:03-3482-9069 E-mail:ceri@seijo.ac.jp
 共催：教育イノベーション委員会、FD・SD小委員会、教務委員会



学年によって学生が選択する授業参加形態が変わっていく点やその理由、ご自身の率直な感想や学生の満足度から、より効果的・最適な授業運営を模索していきたいと話された新倉准教授。



実際の授業での機材の使用感と問題点・改善策の他、出欠確認での工夫、リアクションペーパー・小テストでのWebClass活用等、Zoom参加学生・教室参加学生双方への配慮を具体的に発表された水澤准教授。

セミナーでは、教室の様子を映すカメラの設定や、学生の声(教室・Zoom両方)を拾うマイク・スピーカー等に関する事、そのほか、不公平感をなくすためのZoom参加学生への頻繁な声かけや資料作成の工夫等について、詳細な報告がありました。また、実際に教室から遠隔授業の様子を再現する形式での報告もありました。

各教員からの報告終了後は、教務部より、ハイフレックス型授業に対応するために新たに教室に設置した機器類に関する説明があり、その後、参加教員同士における盛んな質疑応答も行われました。

当日の参加者は164名(内訳は下記詳細)となり、本学教員ほか学園内の中学校・高等学校教員の参加もいただき、盛会に終了しました。

参加者内訳

所属	人数
大学教員	148名
中学校高等学校教員	3名
事務職員	13名
計	164名



PPT内で実際の授業の動画や音声を再生しながらの状況報告をしてくださいました町村教授。

ハイフレックスと一言で言っても、教育の内容と目的によって重点にメリハリをつけると有効な教育効果が得られるとまとめた。



専門の映像認知の観点から各機材の特徴を明確にした上で、ゼミ・グループワーク・ホスト会場として行った教授会の実践経験から、授業をスムーズに進めるポイント(すべき事、しなくていい事)を示した青山教授。



723教室で模擬授業を行った遠藤教授。

外付けカメラや教室に設置された複数のカメラで教室の様子を映しながら機材と授業デザインの工夫や学生が発言しやすい環境をつくる細かな心がけを説明された。



教務からの機材説明のあと、参加教員からZoomのチャット機能で寄せられた質問への質疑応答が行われた。

FD・SDオンラインセミナー

WebClass 活用
オンラインセミナー

講師 近藤 孝道 氏(日本データパシフィック株式会社)

日時 2021年3月31日(水)午後4時～5時

開催方法 Zoomによるオンライン開催

本学では授業支援システムとして、インターネットを利用して資料の提示、テストの実行、レポートの提出や成績データの集計が行える「WebClass」を導入しています。

この度バージョンアップが行われることとなり、新バージョンでは一部の画面や操作方法が変更となることから、講師に「WebClass」の開発元である日本データパシフィック株式会社の近藤孝道氏をお迎えし、学内向けに「WebClass活用オンラインセミナー」を開催しました。

バージョンアップを機に開催された本セミナーですが、新年度の開講直前であったため、参加者には事前に動画マニュアル「先生のためのWebClass入門」を案内し、基礎的な部分の把握・再確認を促しました。

セミナーは近藤氏より主な活用場面や機能の説明を、新バージョンで追加された機能とともに説明いただくことで、初めて「WebClass」を使用する教員、旧バージョンを使用したことのある教員どちらもが有益な情報を得ることができる内容となりました。

続いての質疑応答では、事前に参加者から寄せられていた質問、Zoomのチャット機能によってリアルタイムで寄せられた質問をZoomの画面共有機能を活用し、実際の動作とあわせて回答いただきました。

基本的な操作の概要から今回のバージョンアップによる改善点・現在改善を検討している点を共有し、また「WebClass」を実際に使用している教員が感じていた疑問点や要望を明確にし、開発元へのフィードバックを行うこともできた有意義なセミナーとなりました。



**「WebClass活用
オンラインセミナー」**

本学では授業支援システムとして「WebClass」を導入しておりますが、この3月に機能がさらに充実した最新バージョンにバージョンアップすることになりました！
つきましては、「WebClass」をより効果的に活用して頂くため、新バージョンの主要な機能を解説させていただくセミナーを企画しました。是非ご参加ください。

日時
2021年3月31日(水)
16:00～17:00

会場
Zoomによるオンライン開催

参加対象
本学教職員
※新任の先生方もぜひご参加ください。

第1部(約30分)
WebClassの主要な機能について
- 講師教員が授業資料の作成をする
- レポート課題を作成する
- 小テストを作成する
- 採点を行う
- 成績を提出する
- 学生とのコミュニケーションを取る
＜便利な機能＞
- 学生に連絡する、タイムライン

第2部(約30分)
質疑応答
WebClassの操作方法に関する
疑問についてご回答します。

＜説明および質問回答＞日本データパシフィック(株)の近藤孝道氏

下記専用フォームより**3月28日**までにお申し込みください。
<https://forms.gle/a15Ss67PRrEXU5jQ7>
※申込欄には、当日Zoom URLをメールにてご案内します。

お問い合わせ先 **教育イノベーションセンター**
TEL: 03-3482-9069 | E: cer@seijo.ac.jp

＜動画マニュアル＞Youtubeに【先生のためのWebClass入門】を公開しています。
● 基本操作(4:36) ● レポート課題作成(5:05)
● 資料作成(3:41) ● アンケート作成(4:42)



参加者内訳

所属	人数
大学教員	146名
事務職員	15名
計	161名

FD・SDワークショップ

学生の考えを引き出す 授業デザイン

講師 田口 真奈 先生(京都大学 高等教育研究開発推進センター 准教授)

日時 2020年12月16日(水) 午後6時～7時30分

開催方法 Zoomによるオンライン開催

コロナ禍において対面授業から、学生の考えを引き出すためのより「質」の高いオンライン授業の実施が求められ続けています。

そこで、「明日からの授業に役立つTipsを学ぶ」を趣旨に京都大学より田口真奈先生を講師にお迎えし、ワークショップを開催いたしました。授業中または授業後に学生からのアウトプットを引き出す具体的な方法や工夫を体験しながら、オンラインでどのようにインタラクティブな授業を実現するのか、という理解を深めました。

参加者はオンライン授業で活用できるZoomのチャット・投票機能等を実際に使用しながら、機能活用の利点・その中で生じる問題と解決方法や、学生の意見を集める際のポイントを伺いながら、チャットよりも更に学生が気軽に発言できる「匿名性」を活かせるツールもご紹介いただきました。

また、ハイフレックス型授業は教員の一方通行になりがちであるため、実際にホワイトボードツールを使い、対面では簡単に対応できていた臨機応変なコミュニケーションの取り方を、参加者各自が書き込みながら学ぶことができました。

オンライン授業において、学生に「集団で授業に参加している」感覚を持たせるためには、学生の考えを引き出すためにこと細かに指示をする教員側の意識と、その意識を具現化できる様々なICTツールの活用による授業デザインが大切であるということ、実際にツールの操作をしながら学びました。その後の質疑応答も盛んに行われ、先生方が直面している課題への具体的な解決策を共有することができた有意義なワークショップとなりました。

参加者内訳

所属		人数
学内	大学教員	42名
	職員	9名
学外参加者		19名
計		70名

成城大学FD・SDワークショップ

Zoom開催
事前申込制

学生の考えを引き出す 授業デザイン

オンライン授業では、学生が何を考えているのかわかりづらく、授業がやりにくいと感じられたことはないでしょうか。学生の考えを引き出すことは、深い学びの実現のためにも重要です。本ワークショップでは、授業中または授業後に学生からのアウトプットを引き出す具体的な方法や工夫を体験しながら学び、オンラインでどのようにインタラクティブな授業を実現するのかについて、みなさまとともに考えてみたいと思います。

日時 **2020年12月16日(水) 18:00～19:30**

開催方法 Web会議システムZoomを用いたオンライン開催
※ワークショップ中にビデオ/マイクオンを求めるとあるタイミングがあります。

参加対象 本学副教職員及び非常勤講師、世田谷プラットフォーム加盟大学及び五字圏教職員

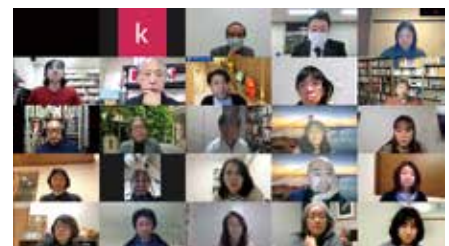
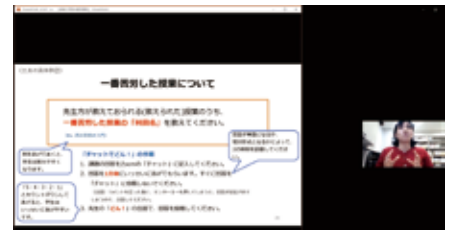
講師 **田口 真奈 先生** (京都大学 高等教育研究開発推進センター 准教授)
専門分野：教育工学 (Educational Technology)
1999年に大阪大学大学院人間科学研究科博士課程を修了。京都大学高等教育教授システム開発センター 研修員、メディア教育開発センター (現・放送大学ICT活用・遠隔教育センター) 助教授、ハーバード大学フェレック・ボック教授学習センター 客員研究員をへて、2008年から現職。教育学研究科遠隔教育学講座 (高等教育学コース) の准教授を兼任。

お申込み方法 下記専用フォームより、12月14日(月)までにお申込みください
<https://forms.gle/3DDR8EGVWkkyBj8A>

※申込者には、事前にZoomのURLをメールにてご案内します

お問い合わせ：成城大学 教育イノベーションセンター
TEL 03-3482-9069 E-mail: cceri@seijo.ac.jp

共 催：成城大学教育イノベーション委員会 FD-SD小委員会、成城大学教務委員会



実際に機能やツールを使い、オンラインで授業を受ける学生の視点を体感しました。



ホワイトボードツール「Petari」
コンセプトマップ作成等、用途は様々。

SDオンラインセミナー

大学教育における質保証の実質化と 認証評価の活用

～甲南大学による認証評価に関する事例報告を中心に～

講師 佐藤 泰弘 先生(甲南大学 副学長・学長室長・全学教育推進機構長)

林 正樹 氏(甲南大学学長室 次長)

大長 敬幸 氏(甲南大学学長室 課長補佐)

日時 2021年5月18日(火) 午後6時～7時30分

開催方法 Zoomによるオンライン開催

本学は認証評価機関である大学基準協会による認証評価を2022年度に受審することとなっており、それに向けて2019年度から毎年自己点検・評価を実施しています。

このたびは、2020年度に第3期認証評価を受審し、非常に高い評価を得られた甲南大学より副学長佐藤泰弘先生、学長室次長林正樹氏、同課長補佐大長敬幸氏を講師にお迎えし、その経験を元に、内部質保証システムの実質化や認証評価の活用をテーマに、具体的な取り組みや実務的な作業についてご説明いただくセミナーを開催しました。

内部質保証システム構築の経緯と概要、第3期認証評価における甲南大学の評価、評価に向けて行った工夫点や受審にあたって苦労された点や、「自己点検・評価報告書」作成のポイントを実際のPDCAサイクルシートを共有いただきながら、具体的な作業手順とともにご説明いただきました。

更に、2020年10月の実地調査は、新型コロナウイルス感染症の影響で、急遽オンラインで行われたとのことでしたが、その際の入念な準備についてもお伺いすることができました。また、受審してみても率直な所感や、その中で組織として得ることができたメリット等についてもお話をお伺いできました。



なお、甲南大学の「大学評価」結果においては、「教育課程・学習成果」「学生支援」および「社会連携・社会貢献」の3つの基準において、次の4つの取り組みが長所として取り上げられ、先駆性・独自性がある事項で有意な成果が見られるとの評価を受けました。

- 1) アクティブ・ラーニング型授業を活性化するためにラーニング・アシスタント制度を導入し、支援体制の整備を積極的に行うことで、ラーニング・アシスタントを担う学生への教育効果と、支援を受ける学生の理解や学習へのモチベーションの向上を実現している。
- 2) 学修ポートフォリオと教務システムを統合することより、「卒業認定・学位授与の方針」

と対応関係にある各科目の「到達目標」の修得状況及び成績が「学修度」としてレーダーチャートで表示され、学生自らが学習成果を認識することに加えて、カリキュラムマップ、シラバス、各学生の成績情報等の情報を一元的に扱うことができるようになっている。学修ポートフォリオから伸長させたい学習成果(到達目標)を選択すると、これに対応する履修可能な科目(配当年次・単位未修得)が表示され、履修登録までワンストップで行うことができ、学生自身が学習成果を着実に身に付けていくうえで、有効なシステムである。

3) 2015(平成27)年度より導入した「KONANサーティフィケート制度」は、「人物教育の率先」という建学の理念に基づき、「KONANライブラリサーティフィケート(書籍に関わる幅広い活動をとおして得た力を評価)」「KONANグローバルサーティフィケート(国際交流をとおしたグローバル人材としての力を評価)」「KONANボランティアサーティフィケート(ボランティア・地域連携活動をとおした自発的な行動力を評価)」「KONANスポーツサーティフィケート(スポーツ活動を通して得た力を評価)」「KONANラーニングサポートサーティフィケート(他学生への学びのサポートを率先する姿勢やサポート活動をとおして培った力を評価)」の5分野の活動の実績に応じた等級を評価・認定している。多くの学生が認定を目指して活動に取り組んでおり、学生が持つ能力の伸長を促す取組みとして機能している。

4) 加古川市及び新聞社と連携し推進している「加古川『知』を結ぶプロジェクト」では、地域課題の解決に向けて学生が研究発表することを通じて、学生が議論をする力や広い視野を獲得してい

る。また、新聞社と連携して推進している「関西湾岸SDGsチャレンジプロジェクト」でも、地域課題の解決のために学生が研究発表することを通じて、学生が課題発見力・調査力・チームマネジメント力等の力を獲得している。

本セミナーの当日の参加者は57名(内訳は下表参照)となり、活発な質疑応答が行われ、盛会の内に終了しました。

参加者内訳

所属	人数
大学教員	40名
事務職員	17名
計	57名



(写真・画像はすべて大学基準協会ホームページより)

ピアチューター制度に係るSD活動報告

<Supporters' Forum 2020 at Seijo University>

2020年11月21日(土)、学内で活躍している学生サポーター団体の相互理解と学外の学生サポーター団体との連携を図る目的で、学生によるサポーターズフォーラムを開催した。

4回目となる今回は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、新しい試みとしてオンラインにて開催することとなったが、15大学および高校2校、総勢約120名の学生・生徒が集結した。

「学習・キャリア」「国際交流」「ライブラリー」「バリアフリー」の各分野に特化した分科会では、他団体の活動内容について質問が飛び交い、活発なコミュニケーションが生まれた。その後の全体ワークでは「サポーターのあり方を考える」というテーマのもと、Zoomのブレイクアウトセッション機能を活用したグループディスカッションやワークシートの作成を通じて、今後のサポーター活動に活かせる新しいアイデアを獲得するとともに、大学、団体の枠を超えた交流を通じて、学生相互、また職員間でも成長が図れる貴重な機会となった。

フォーラムの開催に向けては例年通り、各サポーター団体の代表学生と各部局の職員とが毎月の打合せを行い準備を進めてきたが、今回は職員が新しいオンラインコンテンツの活用を学生に提案したり、共に身に付けていくなど、オンライン開催ならではの利点を活かしながら学生の主体的な行動を引き出すための支援を行い、それ自体がSD活動の大きな取り組みともなった。

【サポーターズフォーラムのプログラム】

13:00~13:40	開会挨拶、趣旨説明
13:40~14:40	分科会
14:50~15:30	全体ワーク テーマ「サポーターのあり方を考える」
15:30~15:40	閉会式



分科会ごとにZoomを設定。事前資料でしくみを説明。



参加者の集合写真。ピースでよい笑顔。



サポーター担当職員は教室に集まり運営。

初のオンライン開催。実施方法の検討から参加校への事前連絡・当日の運営も試行錯誤の中で行われた。



オープニングにピアサポーターの力作動画が流れ拍手喝采!

経済学部**ゼミナール選択におけるコロナ禍での新たな取組**

経済学部

平野 創 教授

本稿では、2021年4月に行われたコロナ禍でのゼミナール選択における経済学部の取組について紹介をしたい。今回のゼミナール選択では、学生へ対面での説明の機会を提供しつつ、同時にオンラインを活用したことが特色である。結論を先取りすれば、第一にゼミナール説明会の開催形式を変更することで学生は以前よりも多くのゼミを比較検討することが可能となり、第二にオンライン上で専任教員が互いのゼミの学習内容を確認することが可能となったことでFD活動にもつながった。

経済学部 に在籍する学生にとってゼミナールの選択は極めて重要な意思決定となる。なぜなら、経済学部においては2～4年次のゼミナールの履修が必修とされているだけでなく、4年次には卒業論文の提出が卒業要件となっているからである。さらに、原則として3年間同一のゼミに所属することになっている。そのため、2年次冒頭で行うゼミナール選択はその後の3年間の学習の方向性を定める重要なイベントなのである。

しかしながら、2021年4月にゼミナール選択をする2年生は新型コロナウイルスの感染拡大により、十分な情報を持たないままゼミナールを選択することを強いられていた。彼らが1年生であった2020年はすべての授業がオンラインで実施されており、ゼミナールの担当者である専任教員に直接触れる機会が全くなかった。通常は、1年次に経済学科であれば専門基礎必修科目や専門基礎選択科目、経営学科では初年次教育科目や専門基礎科目の受講を通じてゼミナールを担当する専任教員に対面で接する機会がある。また、ゼミナールの選択に際しては、多くの学生が部活動やサークルなどの先輩からの情報も参考にし、同級生間で情報交換等も行っていたが、そうした機会もコロナ禍で奪われていた。

こうした状況を鑑みて、経済学部では2年生がすべての教員と対面で接する機会を新たに設けることにした。4月5日と6日の2日間を費やし、全教員が持ち時間30分で自身のゼミナールについての説明を順番に行うゼミナール説明会を開催した。このゼミナール説明会に多くの学

生が参加をした。経営学科のトップバッターを務めた教員の方に伺ったところ、ほぼ新2年生の全員が参加しているのではないかとと思われるほどの盛況ぶりであったという。オンラインでの講義が続く新2年生にとっては、この機会が初めて大学の教員と直に接する機会ともなったのである。なお、このゼミナール説明会では2021年度の対面授業では学生が立ち入る機会の少ない大教室を活用し、三密を回避すると同時に大学の大教室の雰囲気味わってもらおうという工夫もした(経済学科は5日に007教室、6日に003教室、経営学科はその逆のパターンにすることで複数の教室・校舎を見れるようにした)。

また、新型コロナウイルスの感染を危惧する学生に対応すべく、ゼミナールを担当する全教員がWebClass上にもゼミナールに関する説明資料を掲載し、学生および教員間で参照できるようにした。これにより、説明会終了後も資料を参照することでゼミナールの選択について考える機会を設定した。また、教員も他のゼミの説明資料を閲覧することができるため、通常はなかなか触れることがない他ゼミナールの学習内容や取組を知る機会となり、期せずしてゼミナールに関するFD活動という側面も併せ持つことになった。私自身も他のゼミナールの活動内容に刺激を受けるとともに、他の教員の方より自身のゼミの内容について尋ねられる機会があった(自身の内容をさらけ出したようで少し恥ずかしかったが…)。また、オンラインで志望ゼミの登録・変更を行えるようにしたため、学生にとっては必要書類の提出のために来校する必要がないなど利便性も向上した。

新型コロナウイルスの感染拡大は対面授業が困難になるなどの苦難も存在したが、一方でオンラインの活用によって、ゼミナール選択の利便性が向上したり、授業ではチャットを利用することで質問がしやすくなったり、繰り返し視聴し学習が深まったりするなど、教育活動の質の向上につながる側面もあった。コロナ後もこうした良い側面については継続し、後戻りしないことが新たな時代の大学教育形成につながるものと信じている。

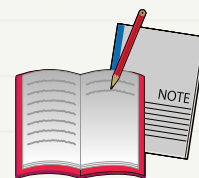
各学部及びセンターのFD・SDへの取り組み2

データサイエンス教育研究センター

データサイエンス教育研究センターにおけるFD活動について

データサイエンス教育研究センター長

小宮路 雅博 教授



データサイエンス教育研究センターは、「全学共通教育科目としてのデータサイエンス教育」と題したFD講演会を、去る2020年10月31日(土)13時30分から15時30分まで、Zoomを利用したオンライン形式で開催しました(教育イノベーションセンター共催、世田谷プラットフォーム後援)。

昨今、データに基づく意思決定を支える学問・研究分野としてデータサイエンスが注目され、様々な大学等でデータサイエンス教育の導入が議論されています。本学は、日本IBM東京基礎研究所との包括的な連携協定に基づき、全国の文系大学の中では先駆けとして、2015年度より全学共通教育科目の中にデータサイエンス科目群を設置し、理数系教育の推進および学部・学科の教育課程をサポートすることを目的として、データサイエンス教育に取り組んできました。このFD講演会は、データサイエンス教育のあり方や今後の方向性について、データサイエンティストとしてご活躍されている外部講師を交えて検証し、さらに議論を深めていくことを目的として開催されました。

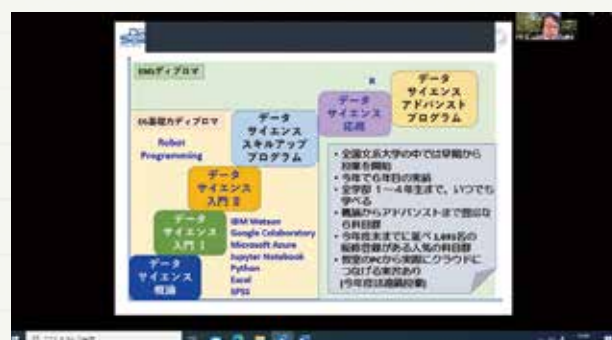
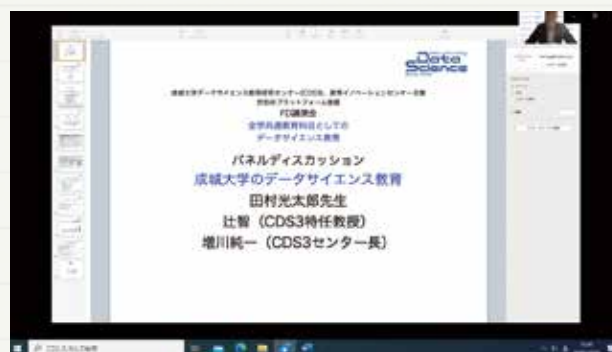
当日は、戸部順一学長より開会のご挨拶をいただき、増川純一データサイエンス教育研究センター長から趣旨説明がありました。

つづいて、第1部として、株式会社野村総合研究所金融ITイノベーション事業本部NRI認定データアナリストの田村光太郎氏による「データサイエンスプロジェクトから考える分析スキル」と題した講演が行われました。

田村氏は本学データサイエンス科目群の非常勤講師並びに本センターの外部アドバイザー委員も務めていただいております。

田村氏による講演では、データサイエンティストが携わる分析プロジェクトの概観についての紹介と、データサイエンティストの役割やスキル、必要な技術等を紹介いただきました。また、データを分析するだけでなく、価値のある情報を取り出し、イノベーションを起こすというデータサイエンティストのあり方を実践的に解説していただきました。

つづいて、第2部として、田村氏、増川データサイエンス教育研究センター長、辻智データサイエンス教育研究センター特別任用教授の3名による「成城大学のデータサイエンス教育」と題したパネルディスカッションが行われ、文系大学である本学のデータサイエンス教



上の画面は パネルディスカッション資料

下の画面は データサイエンス科目群説明資料

育の状況等について意見交換がなされ、質疑応答が行われました。

最後に、杉本義行副学長・教育イノベーションセンター長より閉会のご挨拶があり、終了いたしました。

当日は60名を超える参加者があり、ご参加いただいた方からは、「ビジネスの場で使用されるツールや手法を大学で学ぶことは学生にとって、メリットが大きい」、「理系・文系関係なく将来ITのスキルは必須になると実感した」、「“プレイフルデータサイエンス”を掲げて楽しく学生に指導をされている様子が伝わってきた」等の感想を寄せていただきました。

学部・学科の教育課程をサポートするデータサイエンス教育は、文系・理系にとらわれない実践的な学びの場であり、PBL（問題解決型学習）に適していることを確認することができました。

なお、データサイエンス教育研究センターでは、FDに係る活動の一環として、2021年11月13日（土）午後にお茶の水女子大学文理融合AI・データサイエンス

センター特任講師である土山玄氏と、東京工業大学環境・社会理工学院准教授である笹原和俊氏を講師にお迎えして、「人文・社会科学におけるデータサイエンス」と題して、人文科学および社会科学それぞれの観点からご講演をいただくシンポジウムを開催しました。当日は50名を超える参加者があり、盛況のうちに終了いたしました。



本学9号館「データサイエンススクエア」。データサイエンス科目群の授業に対応した設備を完備。

News!

文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」に認定されました!

2021年8月4日付けでデータサイエンス教育研究センターの「データサイエンス基礎力育成・認定プログラム」が、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」に認定されました。（有効期限:2026年3月31日）

この認定制度は、2021年度から開始されたもので、数理・データサイエンス・AIに関する知識及び技術について体系的な教育を行うものを文部科学大臣が認定及び選定して奨励することにより、数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な能力の向上を図る機会の拡大に資することを目的とするものです。認定されると下に示す認定ロゴを掲げることができます（**MDASH** : Approved for **M**athematics, **D**ata science and **AI** Smart **H**igher Education）。

「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」認定ロゴ



（認定期限:2026年3月31日）

「授業カタログ」を刊行しました!

FD活動における、授業の内容および方法の改善を図るための制度的な取り組みの一環として、「授業改善アンケート」において高い評価を得ている先生方へのヒアリングをもとに、優れた取り組みや授業方法の共有を図ることを目的に、「授業カタログ」を刊行しています。ベストティーチャー賞の受賞者から、2名の先生にもご登場いただきました。2020年度は、取材を進める中で、遠隔授業の利点を活かしながら「学生とのコミュニケーション」「目的や指示の明確化」「学生の負担に配慮」という、より学習者を中心に据えた授業設計の工夫を拝見することができました。実際に受講した学生の声とともに、冊子として「見える化」することで、大学全体の授業改善や効果的な履修指導へつながれば幸いに存じます。

2021年度版の作成の際も、先生方におかれましては、授業の取材・撮影のご協力をお願いいたします。

掲載内容を大学HPで公開しております。ぜひご覧ください。



2021年度活動計画

- 2021年 4月 ● 新任教員研修会
- 5月 ● SDオンラインセミナー
「大学教育における質保証の実質化と認証評価の活用」
- 7月 ● 前期授業改善アンケートの実施
- 9月 ● 2020年度授業改善アンケート集計結果報告、公開
● 前期授業改善アンケート集計結果報告、公開
- 12月 ● 成城大学FD・SD Activity Report 2020・2021年度版発行
● 後期授業改善アンケートの実施
- 2022年 3月 ● 2022年度事業計画、予算概算要求書確定
● 授業カタログ発行
 - ※1 時期が未定の事業
 - ・FD・SDにかかる研修会参加、他大視察
 - ・FD・SD講演会・ワークショップ
 - ※2 事情により、上記の予定が変更になる場合があります。

成城大学教育イノベーション委員会FD・SD小委員会委員 (2021.5.1現在)

委員長	杉本 義行 (教育イノベーション委員会委員長)		
委員	杉本 義行 (教育イノベーションセンター長)	相原 章 (経済学研究科)	
	大津 武 (教務部長)	松田 浩 (法学研究科)	
	平野 創 (経済学部)	加藤 敦宣 (社会イノベーション研究科)	
	山下 純照 (文芸学部・文学研究科)	大友 浩一 (事務局長)	
	池田 雅則 (法学部)		
	青山 征彦 (社会イノベーション学部)		